



山口市

# 報道資料

(NO.1)

平成29年11月15日

1 件 名 平成29年度地域文化功労者表彰被表彰者の決定について

## 2 内 容

平成29年度地域文化功労者表彰被表彰者に陶腰輪踊保存会が決定しました。

### ①地域文化功労者表彰とは

全国各地域において、芸術文化の振興、文化財の保護に尽力するなど地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対し、その功績をたたえ、文部科学大臣が表彰するものです。

### ②被表彰者

陶腰輪踊保存会（すえこしわおどりほぞんかい）

会長 山本幹夫

昭和48年保存会設立

永年にわたり、県指定無形民俗文化財「陶の腰輪踊」の保存と継承に尽力し、地域文化の振興に貢献している。

### ③表彰式

平成29年11月22日（水）に文部科学省にて行われますが、陶腰輪踊保存会は欠席されるため、12月14日（木）に県庁にて伝達式が行われます。

### ④その他

全国の被表彰者

芸術文化分野 56件（個人44、団体12）

文化財保護分野 41件（個人30、団体11） 計97件

※山口県内では、陶腰輪踊保存会のほかに芸術文化分野で個人が受賞。

## 3 問い合わせ

山口市教育委員会 文化財保護課 （担当：満瀬）

TEL (083)920-4111 fax (083)920-4112

Mail:bunkazai@city.yamaguchi.lg.jp



山口市

# 報道資料

(NO.2)

平成 29 年 11 月 15 日

## 4 保存会詳細

陶の腰輪踊は、山口市陶地区に伝わる伝統民俗芸能であり、同地区の八雲神社に所蔵されている「当屋名寄帳」の記載によって、およそ450年以上前から念仏踊りとして行われていたことが分かる。また、天保13年(1842)の「風土注進案」には、この踊りが6月土用3日に腰輪踊りという名称で舞われ、陶や名田島の社寺を巡っていたことが記述されている。

現在、陶の腰輪踊は、山口市陶郷上下の住民によって伝承されており、毎年8月28日に、八雲神社(荒神社)の風鎮祭において、子どもたちが境内で舞いを奉納している。この踊りは、馬の病難除けを祈るための舞いで、踊り子が御幣を下げた竹の輪を腰に着けて踊るので、「腰輪踊り」と呼ばれ、午の年にだけ踊られていたという記録もある。腰輪踊は、県内各地で、「念仏踊り」、「楽踊り」、「カンコ踊り」、「なむお一ぜん」などと言われるものが踊られているが、陶のものは、他のものと比べて、動作が小さく、単調な踊り方が特色となっている。

昭和33年には、すでに地元住民により陶の腰輪踊の伝承者の養成等を目的として保存伝承の体制を確立していたが、正式には、昭和48年10月に山口県指定無形文化財に指定されたことに伴い保存会を設立、これまで以上に後継者育成強化に努めた。また、その後昭和51年3月に山口県指定無形民俗文化財に指定された。

過疎化や少子高齢化の進む中で、保存会の努力によって今日まで踊りを伝承し、さらなる保存伝承に力を注いでいる。また、八雲神社の風鎮祭以外にも、文化行事での依頼公演に出演するなど、伝統文化の伝承や振興に取り組んでいる。

以上のように、保存会会員が協力して郷土の伝統文化の保存・伝承に尽力し、地域文化の振興・発展に多大な功績をあげている。